

飯南

いいなん

議会報



バックナンバーも読めます。

第84号
令和8年1月20日

- 2 年頭のごあいさつ
- 3 12月議会報告／可決した主な議案
令和7年度補正予算
- 4-11 一般質問
- 12 討論／採決の結果
- 13 視察研修報告
- 14 常任委員会報告
- 15 決算審査報告
議会活動報告／全員協議会の報告
- 16 明日を拓く



年頭のごあいさつ

飯南町議会議長

早樋 徹雄



明けましておめでとうございます。

町民の皆様には穏やかに新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

平素は、議会活動に對しまして格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

世相を表す令和7年の「今年の漢字」1、2位は「熊」と「米」が選ばれ、3位に「高」となり、何れもこの地域に関係の深いものとなりました。

「熊」は、全国では過去最悪と言われる人的被害が発生しており、憂慮すべき事態となっております。幸いこの飯南町での被害はありませんが、共存ということの難しさを感じております。

「米」は、令和7年度産生産者売渡し価格は近年にない高い水準となり、生産者にとっては有難い価格となりました。一方で、消費者価格は高値で推移しており、米離れなども懸念されます。水田農業地帯にとつて国民の主食である米価の安定は、持続可能な地域のために大きな要素であり、生産可能な価格に落ち着くよう強く願っております。さて「高」は、国においては物価高騰対策として全国の自治体に対策費が交付されます。

飯南町では、地域電子通貨「いーにゃんPAY」へ、1人当たり1万5千円分のポイントを付与して支援することに決定しました。これは、町執行部の地道な普及推進により8割強の方が所持するカードとなり、これにより町民のほとんどの方がいち早く国の物価高騰対策を享受出来ることとなりました。早い対応が出来ましたことを嬉しく思います。

町民の皆様の益々のご健勝と、本年が希望に満ちた年になりますようご祈念申し上げます、ご挨拶いたします。

令和7年

12月定例会を終えて

12月2日から12月12日までの11日間の日程で開催

物価高騰対応として、生活応援ポイントで住民1人に1万5千円分を交付する。さらに子育て応援手当で児童1人当たり2万円、飯南病院に2千万円、医療・介護・福祉の事業所に総額8百万円余、商工業者に総額2千3百万円余を支援する。

併せて、今夏の大雨災害復旧費用として、4千8百万円余を計上した補正予算を可決した。

「い」でも誰でも通園制度」として、3歳未満の乳幼児に適切な遊びと生活の場を整え、10名程度でひとり1カ月10時間（2時間を5回）を保育所で預かることができるようにする条例（乳児等および特定乳児等の通園支援事業の設置・運営を定めた条例）を可決した。

可決した主な議案

認定

令和6年度飯南町一般会計、各特別会計歳入歳出決算及び各公営企業会計決算の認定

条例関係

飯南町滞在型地域交流拠点施設の設置及び管理に関する条例の制定など10件

予算

令和7年度飯南町一般会計補正予算（第4号）など10件

諸議案

令和7年度特別養護老人ホーム建設予定地造成工事（1工区）請負契約の締結についてなど2件

令和7年度 各会計補正予算

一般会計は **2億9429万円** 増額

飯南町生活応援ポイント付与6600万円の増額、7～8月の大雨災害に伴う災害復旧費4880万円の増額、商工業者物価高騰等応援金支給2308万円の増額、物価高対応子育て応援手当1312万円の増額、給与改定による人件費3825万円の増額など

会 計 名		補正予算額	予算総額
一 般 会 計		2億9429万円	82億3058万円
特別会計	国民健康保険事業	920万円	6億4559万円
	後期高齢者医療事業	781万円	1億9736万円
	介護保険サービス事業	152万円	4280万円
病院事業会計		3053万円	14億9244万円
簡易水道事業会計		63万円	5億6924万円
下水道事業会計		29万円	5億8959万円

一般 質問

令和7年 12月定例会



伊藤 好晴 議員

環境保全と農作業両立を

プラスチックごみの海洋汚染が問題になっており、農業分野では生分解性マルチの導入で効果が期待できる。生分解性マルチについて、どう考えるか答弁を求める。

生分解性マルチは、施用後は水と二酸化炭素に分解され、海洋汚染を引き起こさない。農家の方は「マルチを施用するときよりも片付けるときの方が労力を要する」と話されていることもあり、生分解性マルチの導入は一挙両得と考えている。

「生分解性マルチが本町農業に悪影響を及ぼす」というような考え方なら話は違いますが、大いに取り組むべきと考える。導入への補助を求める。



生分解性マルチを使った農作業

Q 生分解性マルチへの補助を

A 補助はしない

町長 塚原隆昭

生分解性マルチは、環境に優しい資材だと思う。持続可能な農業資材だが、劣化が早く価格が高い。

町も助成するJAが行う廃ビニールの回収を続けており、黒マルチもたくさん持ち込まれている。廃プラスチックの処理は現行を継続する。

生分解性マルチの研究は続ける。

Q 災害時避難所の質向上を

A アンケート内容はクリアした

町長 塚原隆昭

島根県地震・津波被害想定調査では、最大震度4、想定避難者（町内避難者のみ）200人として基準を満たしている」と回答した。

前回の質問の後、有効面積を再確認したところ、松江市大野町からの避難だけであれば十分に確保できることがわかった。空調設備は考えていない。

※スフィア

被災した人が「尊厳ある生活」を送るために、水、衛生、食料、避難所、保健医療などの分野で「最低限守るべき支援の質と量」を定めた国際的な基準

「スフィア（※）」と呼ばれる国際基準が「避難所の質向上の指標」として正式に位置づけられ、避難所における一人あたりの専有面積は3・5㎡、災害発生時の初期段階で50人に1基のトイレ（一定期間後は20人に1基）が必要だ。

共同通信社が行った全国市町村の回答では、およそ半数の自治体が基準を満たしていなかった。本町はどう回答したのか。

2019年3月議会の質問には、原子力災害時の広域避難所は赤名農村改善センター・赤名小学校など13カ所。一人当たりの専有面積2㎡。必要物資は県の支援を受け、準備するという内容だった。「しっかりとした対応で迎える。それが基本である。今後の宿題とする」というものだった。前回はあったか。

今回の国の避難所運営指針の改定は、大きな課題を突

要支援者への災害対策を

内藤 眞一 議員



Q 個別避難計画の策定状況は

9月に改訂された「飯南町地域防災計画」について、風水害対策に比べて地震対策の記述が簡略であり、実際の災害対応として十分か疑問が残る。

11月5日の新聞報道で、自力で避難することが難しい「避難行動要支援者」の個別避難計画の策定が県内で進んでいないことが取り上げられ、島根県全体の策定率が13・4%である中、飯南町は



避難所設営訓練

対象1446人のうち53人と3・7%にとどまっている現状は問題だ。

他市町村では名簿に名前を載せる段階で「迷惑をかけたくない」「支援者に責任を負わせたくない」といった心理的な抵抗があることが報じられており、本町でも同様の課題があるのではないかと。そのうえで、町の要支援者の選定方法、策定が進まない理由はどこにあるか。災害時に安心して暮らせる体制を整えるため、早期の計画策定を求める。

A 計画策定を進める

町長 塚原隆昭

本町の要支援者台帳には1446人が登録されており、このうち147人が名簿共有に同意している。その中で、介護認定がありケアマネジャーが関わる53人については、すでに個別避難計画（避難チェックシート）を策定済みで、内容は必要事項や部屋の見取り図などを含むA4判2枚程度のものになっている。



避難所受付訓練

策定率が低く見える理由として、本町では「要介護3」「5」「障害者手帳1・2級」「療育手帳A」「精神障害者手帳1・2級」「難病患者」「単身・高齢者のみ世帯」など、地域防災計画に定める「要配慮者」を幅広く要支援者として登録しているため分母が非常に大きくなり、結果として率が低く算出されている。

一方、雲南市や奥出雲町は名簿共有に同意した方のみを対象としているため、分母

が小さく、策定率が高く見える。

今後の取り組みとして、名簿共有に同意している147人のうち未策定の方について、ケアマネジャーだけでなく自治区・自治会・民生児童委員とも連携し、計画策定を進めていく。

また、1446人の要配慮者の中から、実際に支援を必要とする方に対し、名簿共有の同意を得られるよう丁寧な働きかけを行い、引き続き個別避難計画の整備に力を入れていく。

一般 質問

令和7年 12月定例会



産業振興の体制整備を

平石 玲児 議員

Q 農業・林業振興が停滞している

農業の特産化および林業の6次産業化が停滞している。町ではこれまで多くの資源を投入し、メロンややまと芋などの特産品の育成を図ってきたが事業は縮小している。林業でも地域商社「縁（えにし）の森」が設立されたが、期待される成果が見えない。特に、高齢化や担い手不足、技術的な課題が特産化縮小の要因だ。町の支援体制や事業の進め方を見直す必要がある。

成功と失敗を共有する仕組み作り、6次産業化を本気で推進するための体制整備が重要であり、透明性ある商品選定のプロセスが必要だ。

A 商品開発・販路開拓 取り組む

町長塚原隆昭
農産物特産化の縮小要因は高齢化や担い手不足、気象条件、物流の問題などと分析



サツマイモの保管倉庫

した。また、地域商社「株式会社飯南・縁の森」には自立性を尊重しつつ、定期的に情報共有を実施している。結果が十分でないことについては反省している。
特産化の成功事例として、飯南町特産のパプリカやさつまいもなどがあり、情報提供の強化を図る必要性がある。地域資源を活用した商品開発、販路開拓に積極的に取り組む。

Q 独居世帯の増加と見守り体制は

独居高齢者が増加していることに危機感がある。この背景には家族形態の多様化や地域のつながりの減少がある。特に孤独死や夜間の外出による事故の問題について、町として現状をどのように把握し、今後の対策をどう講じるのか。

地域見守り体制の維持・強化については、民生委員や自治会の高齢化により、従来の仕組みでは対応が難しくなっている。ICT機器や見守りアプリなど新たな手段の導入支援や、企業との連携強化が不可欠である。

A 新システム導入で取り組む

町長塚原隆昭
独居高齢者や高齢者のみの世帯について、地域包括支援センターを通じて正確な状況把握をしている。

孤独死や事故の防止には地域での見守り活動が重要である。また、健康教室を開催するなどの取り組みを進めている。

地域見守り体制の維持には、今後、緊急通報システムの新機能「おはようタッチボタン」の導入を考えている。コンビニや郵便局との連携を強化していく。ICTの活用を通じて、地域のつながりを維持しつつ、負担を軽減する仕組み作りが重要である。

こうした新しい手段を導入することで独居高齢者への支援を強化し、地域全体で孤独死や事故を防ぐための体制を整えていく。

介護環境の充実を

高橋 英次 議員



Q 介護事業の現状は

全国的に介護事業所の経営は厳しさを増しており、2024年度には倒産件数が過去最多の179件となった。本町でも、昨年グループホーム1施設が休止するなど、深刻な状況が見られる。

背景には、人材不足や職員の高齢化、介護報酬が物価高騰に十分対応していないこと、賃金水準の低さなど、構造的な課題がある。

これは、若者が介護職を選びにくい要因ともなっており、介護事業者の支援や人材確保、さらには「社会的評価を上げる」行動をとっていく必要がある。いかに改善していくのかを問う。

A 選ばれる介護職へ

町長塚原隆昭

介護職の社会的評価向上に向けては、賃金や労働条件の改善に加え、介護が専門職であることや社会的意義を広く発信し、理解と承認を高めることが重要である。

あわせて、学校現場での教育を含めた人材育成、魅力ある職場環境づくり、新たな施設整備による働きやすさの向上、就労支援制度の継続に取り組んでいく。



特別養護老人ホームあかぎの里

Q デイサービスの存続を

本町では特養の統合により入所サービスの存続が図られている一方、在宅介護を支える「通所介護・訪問介護・短期入所」の三本柱の重要性は極めて高く、特に通所介護（デイサービス）が欠けると在宅介護の継続が困難となる。

町内3か所の地域密着型通所介護事業所について、令和2～6年度の平均収支率を調べた結果、すべて赤字であり、経営は非常に厳しい実態が明らかとなった。その主な要因は、通所介護では特別地域加算が算定できないことや、総合事業における単位数の低さ、要支援者への入浴加算がないなど、報酬制度上の問題にある。

処遇改善加算の引き上げだけでは根本的な解決にはならず、基本報酬や総合事業の単位数見直しが必要である。総合事業の単位数は保険者である自治体が決定

できるため、内容を精査し、他自治体と連携しながら、広域連合・県・国へ要望していく必要がある。
再来年開始の第10期介護保険計画に向け、早急に対応を進めるべきと考えるが、町長の見解を問う。

A 経営環境改善に尽力する

町長塚原隆昭

町としては、訪問介護と同様に通所介護や総合事業にもこれらの加算が適用されるよう、県を通じて国に要望しており、上京時や国会議員との意見交換でも問題提起を行っている。

また、要支援者への入浴加算についても広域連合の構成市町と協議し、対応の可能性を検討していく。



総合経済対策どう活かす

景山 登美男 議員

一般 質問

令和7年 12月定例会

Q 地方交付金はどの程度か

政府の総合経済対策で、総額2兆円の重点支援地方交付金が予定される。本町にはどの程度の配分が見込まれるか。

これまでプレミアム付き商品券や元気回復券の発行、いっくやんPAYに生活ポイントの付与などを行なってきた。この度は、いっくやんPAYの活用を検討しているとのことだが、それ以外の支援策を考えているのか。

A 約1億円を見込む

町長塚原隆昭

交付金の配分については、1億円程度の交付はあるものと思っている。

このたびAコープに「いっくやんPAY」の導入が決定した。食料品の購入において利便性が向上する。医療、福祉施設への支援、商工事業者への支援ができれば検討している。

Q 減税による減収の補填を

軽油引取税の減税で年間数百万円の減収見込だ。減収部分が補填されるか判断し兼ねる。

地方特例交付金での補填を要求すべきではないか。

A 措置配分を求める

町長塚原隆昭

地方交付税制度において、地方譲与税部分が減収になれば、基準財政需要額に対し収入額は減り、不足を普通交付税で措置する仕組みとなっている。

国の政策によって、地方の財政に影響がないよう措置配分を求める。

Q 特定地域づくり事業の取組みを

特定地域づくり事業協同組合の制度としては、2カ所以上の事業所で働かなくてはならない。市町村や組合員以外の事業者にも20%を限度として派遣が認められている。役場への派遣が可能になるよう尽力してはどうか。

建設業や介護人材の募集は常であり、それらへの派遣も例外措置があるようだ。本町での活用を研究してはどうか。

A 民間事業所を優先して進める

町長塚原隆昭

役場の業務の洗い出しを考え、その受入れに事務的な手続が必要かも含め、国・県に確認しながら進めたい。

市町村への派遣は、法改正により50%まで緩和された。町への派遣はできるが、民間事業所を優先すべき。意向を確認して進めたい。



2地域居住の推進を

安部 誠也 議員



Q 空き家で2地域居住を

3月議会の答弁では「令和7年度は関係人口に関する事業を拡大したいが、2地域居住は十分に精査して検討を進めたい」という内容だった。

町内に増加している「一般の空き家」と「遊休農地」を組み合わせ新たな誘致施策を展開してはどうか。

町もクラインガルテンの利用者や、既に町内に拠点を持つ方を「飯南町デュアルライフ大使(仮)」に任命し、都市部での情報発信や、新規移住者のサポートを依頼するなど、人的資源を活用した具体的なアイデアがあるか。

A 多様なニーズに対応したい

町長塚原隆昭

関係人口の拡大から2地域居住の拡大にもつなげたい。まずは移住定住フェアなどの取組を継続して推進し、2地域居住も絡めて、多様なニーズに対応できるように進めたい。

空き家を活用した2地域居住では、空き家バンクに登録した物件が複数あり、すぐに住めるものと、改修が必要なものがあり検討する。



赤名連田地内の空き家

Q 「生命地域」宣言は今、どうか

わが町は、ちいさな田舎^{まち}からの「生命地域」宣言を基本理念にまちづくりを進めている。

「生命地域」とは、この地域に暮らす全ての人々が、地域の良さを認識し、農(米や牛)・伝統文化(神楽など)を守り、次世代へ受け継ごうとすること。

特に、これからは水の大切さが重要視されるので森林保全に力を入れるべき。

女亀山からの清流、希少動植物、琴引山の伝説など守り育てることなどが、循環型社会の土台だと解釈している。

合併時に、総務省過疎問題懇談会座長の早稲田大学の宮口侗迪教授が「生命地域」の理念に魅力を感じられ、来町し講演された。果たして基本理念に沿ったまちづくりになっているのか。

A 自然豊かな資源を活用

町長塚原隆昭

飯南町が誕生して20年が経過したが、基本的な考え方は何ひとつ変わるものではない。

基幹産業である農業、特に「飯南米」をはじめとした農業振興や「奥出雲和牛」を中心とした畜産振興など、先人が残した里山を守るとともに、町民の皆様と未来に向かって、今後も生命地域ならではの施策を継続し、自然豊かな資源を活かした施策を進める。





町職員の人材確保を

安部 丘 議員

定員管理計画において職員数を90名としているが、令和元年以降一度も実現できていない。人材確保は組織力維持向上の基盤であり、最優先課題だ。採用活動と離職抑制の取組について問う。

住民サービス向上の観点では、職員の異動周期が一律的なことから「習熟した頃には異動する」「相談できる窓口が見えない」という話をよく耳にする。希望する職員は7年程度異動せず、業務を習得し、技術に磨きをかけ、より高いレベルの住民サービスを提供できるような道も選択肢として設けるべき。

特に建設、水道、農林振興、自治体DXやAI活用、そして採用などの分野においては効果が大きいがどう考えるか。

Q 職員体制と技能の向上にむけて

A 体制確保に務める

町長 塚原隆昭

職員の確保は、重要かつ深刻な課題と認識。飯南高校ジョブフェアでは先輩職員が出向き説明することで採用が増えてきた。

離職抑制は働きやすい職場づくりから。今年度から新入職員には生活面全般をサポートする年齢の近い職員を配置し、きめ細かな相談、支援の体制を整備した。

限られた職員体制であり、専門的な職員を育てるより、幅広い役場業務を知り、問合せて柔軟に対応できる職員を育成する。

Q 国県補正予算の有効活用を

重点支援地方交付金に食料品の物価高騰に対する特別加算がある。本町はどのような形で支援する予定か。

小規模事業者の賃上げ環境整備には、国に先駆け県が、最低賃金や社会保険料の負担の増加を中小企業が乗り切るための支援として6億2900万円を計上し審議中だ。

強い経済を実現する根幹は、物価高騰に負けない賃金の上昇であり、本町の賃上げ実態を把握する計画はないか。

国の補正予算に、地域未来交付金1千億円があり、デジタル技術を活用した地域の取組、避難生活環境の抜本的改善などが示されている。

本町には全戸、全事業者を光ケーブルで結んだ無限の可能性を持つインフラが既に整備されている。活用に知恵を絞れ。

A い〜にゃんPAYで速やかに支援

町長 塚原隆昭



い〜にゃんPAY

食料品の特別加算は、「い〜にゃんPAY」のポイント付与で支援する。未交付の住民にはプリペイドカードで支給する。賃上げ状況の把握は難しい。厚労省の毎月勤労統計調査を参考にしている。

県の支援策は省力化に資する設備更新も対象で使い勝手が良い補助金である。事業者に届くよう商工会とも連携して周知に努める。

地域未来交付金は、本町が整備した光ケーブルを含め活用を検討する。



一般 質問

令和7年 12月定例会

若者たちを元気に

岸 光研 議員



Q やりがいいいきが感じる職場環境を

少子高齢化、人口減少が進み、特に地方の経済等が衰退している。町民一人ひとりが自ら考え明るい未来に向かうよう、施策を講じていかなければならない。

行政の役割というものがより重要で、住みよいまちづくりに向け、企画立案等を実行しなければならぬ。本町にも優秀で元気のある若手職員が多くいる。若い人材のアイデアをもっと引き出して施策に生かしていくことが重要だ。

それには、職員一人ひとりが元気を出し、光り輝き、やりがい・生きがいのある職場となることを期待するが、町長の基本的な姿勢を問う。

A 仕組みづくり検討

町長 塚原隆昭

ニーズも多様化し、社会情勢の変化の中で、職員は課題の解決に向けて頑張っている。



役場本庁舎内風景

人事交流や若手職員研修などを通して、職員のキャリアアップに努めていきたい。職員一人ひとりの能力向上を目指し、固定概念にとらわれず社会課題に粘り強く取り組む職員の育成を目指す。

職員一人ひとりの「できること」「やりたいこと」を業務の中で伸ばし、やりがいや成長を実感できる仕組みづくりも検討する。

Q 若者たちの居場所づくりを

少子化により、若年層も減っている。それでも地元に残り、家を守り、ふるさとのために頑張る若者もいる。またインターン者も増えている。

そういった若者たちは、小グループでの集まりやサークル活動のような集いはあると思うが、一同に会して組織する団体、以前の青年団のような活動が復活できないものかと考える。

このような活動を通して、この地域での人との関わり、果たすべき役割等も自然に学んでいったように思う。人材育成という観点からも若者が集える組織ができないか、教育長の考えを問う。

A 地域のつながりづくりを進めたい

教育長 大谷哲也

今の時代、考え方やライフスタイルは多様化し、団体組織的な活動に魅力を感じない



い若者も多いと感じる。行政主導で若者が集うということとは難しい。地域で育む人づくり、公民館や地域が連携した社会教育の仕組みづくりが大切だ。学校運営協議会、ふるさと教育、生命地域学など、学校・家庭・地域が力を合わせ、ふるさとに貢献できる人材を育てたい。

考え方が多様化し、担い手不足など課題があっても、地域のつながりづくりを進めれば人々の絆が深まり、子供や若者たちが生き生きと活躍できるまちにつながると思う。

議案第68号

飯南町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の制定について

反対討論 伊藤 好晴 議員

後期高齢者の普通徴収の保険料を4月から6月までの暫定賦課を廃止、7月からの9カ月間で年間保険料を納付させる条例改正案である。

当然支払い月の保険料はあがる。暫定賦課は、急激な保険料の変更を防ぐための有効な手段であり、現行のやり方がベターであることから改正に反対する。

周知を尽くしてから条例改正すべきである。

賛成討論 安部 丘 議員

全国の自治体が一斉に導入する標準システムで後期高齢者医療保険の暫定賦課が廃止されたもの。

町は暫定賦課を継続すべく対応を要望したが、システム移行期間中はできないとの回答で断念せざるを得ない。よって保険料徴収を行なう上で不可欠な条例改正となり賛成する。

議案第75号

飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例について

議案第76号

飯南町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

反対討論 伊藤 好晴 議員

長引く異常な物価高騰で、町民生活は厳しい状況に置かれている。本町経済や町民生活の状況を見たときに議員・特別職の期末手当を上げることが望ましくない。

働く者においては実質賃金の減少など、一層厳しさが増しているのが現状である。

議員・特別職の期末手当を引き上げることに、町民の理解は得られないと考え反対する。

議案第75号

賛成討論 高橋 英次 議員

議員報酬や手当は、議員が職務に専念できる環境を整備し、優秀な人材が立候補しやすい土壌を作るための重要な要素。

議会議員のなり手不足は全国的な課題で、家計を支える若い世代や女性にとつて報酬や手当が壁となり立候補をためらうと、議会の多様性と活性化が損なわれる。

議員各位の理解と賛同を得て可決されることを強く求める。

議案第76号

賛成討論 平石 玲児 議員

今回の改正は、島根県の特別職の期末手当支給割合に合わせて見直すものであり、給与水準の公平性と整合性を保つための改正で、町の意思決定を担う責任と役割を踏まえ、適正な処遇を確保するために必要だ。

採決の結果 [12月定例会] 議案の採決結果は次のとおりです。		結果	伊藤好晴	内藤眞一	高橋英次	安部誠也	景山登美男	安部 丘	平石玲児	岸 光研	高橋 徹
件 名											
令和6年度飯南町一般会計、各特別会計歳入歳出決算及び各公営企業会計決算の認定		認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町滞在型地域交流拠点施設の設置及び管理に関する条例の制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の一部を改正する条例の制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町移住体験住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の制定		可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(土地)の取得		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度特別養護老人ホーム建設予定地造成工事(1工区)請負契約の締結		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町一般会計補正予算(第4号)		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町病院事業会計補正予算(第3号)		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例の制定		可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定		可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町会計年度任用職員の報酬等及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例の制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町一般会計補正予算(第5号)		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号)		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第3号)		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町病院事業会計補正予算(第4号)		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町簡易水道事業会計補正予算(第3号)		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町下水道事業会計補正予算(第3号)		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○賛成議員 ●反対議員

視察研修報告

2025年11月17日(月)～19日(水)

総務厚生常任委員会

人口増加の理由を探って

令和7年11月17日

長野県 南箕輪村

村の誕生以来、人口が増え続け「自立持続可能性自治体」に位置づけられる理由を探りました。担当者によると移住者の多くは県内周辺地域からで、地価が安い、子育て支援政策を先駆けて展開してきたことなどが功を奏し「子育てするなら南箕輪村」という人氣が定着したようです。

県立農業高校、県立工科短大、国立大学農学部と大学院まであり、本町にも県立普通科高校と県立農林大学校林業科があるので、町の財産・資源として生かしたいものです。

町営バスの考察に

令和7年11月18日

長野県 茅野市

AI乗合オンデマンド交通（呼称のらざあ）を視察しました。利用者減少と補助金増が進む公共交通を抜本改革し、バス運行会社4社の主導で、生活路線バス13



南箕輪村役場玄関で

路線を全て廃止し、朝夕のみの通学・通勤バスと「のらざあ」に移行されました。

予約を受けると、AIが自動的に運行ルートを組替えます。8台が終日運行し、仮想停留所は8千カ所で、概ね自宅近くで乗車できます。

利用者は平日が200人、休日100人で増加傾向にあります。令和元年と比較し、利用者は1.9倍に増加。本町の町営バスも検討の余地がありそうです。

教育経済常任委員会

新しい学校のあり方を求めて訪問

令和7年11月17日

静岡県伊豆市

平成30年開校の伊豆市立土肥どい小中一貫校を訪問しました。この地域の2つの小学校と1つの中学校が統合し、小中一貫校として7年目を迎えています。

生徒数の減少から将来への不安を抱え、新しい義務教育のあり方についての検討され、地元住民・学年ごとの保護者説明会を開催し、その後準備委員会を設置され、幾多の困難を経て義務教育学校として開校に至られました。

旧土肥中学校を増改築した校舎に1年生から9年生が学んでいます。

す。

目指す子ども像として「他人の良さや違いを認め、自分を高める」「ふるさと土肥が好きだと言える」など、魅力ある取り組みを感じました。本町にも参考になるところがありました。

人気好調「飯南米」

令和7年11月19日

東京都新宿区

アコメヤ東京神楽坂店

飯南町と地域包括連携協定を締結しているアコメヤ東京の神楽坂店を訪ねました。

店舗に入ると正面中央には、しめ縄創作館から贈られたしめ縄が飾られ、本町のPRに力を入れて頂いています。

店舗には全国のブランド米が並び中でも、飯南米は生産者の顔が見える販売をされ、高い評価を受けていると感じました。

更なる付加価値の向上とブランドの定着に期待をしています。

その他に、埼玉県三芳町の「いも街道」と「アグレッシブ川越（農産物直売所）」を視察しました。

人口増加策と学校教育環境 などの調査に長野県と静岡県に



土肥小中学校の授業風景



委員長：景山登美男 副委員長：安部 丘
委員：早樋徹雄 伊藤好晴 高橋 徹

総務厚生常任委員会

**令和7年度
飯南町一般会計補正予算(第4号)**

【歳出】
定住促進対策事業 **300万円**
事業者が従業員用住宅として空き家を購入・改修する費用の一部を助成する。



工事が完了した病院玄関を視察

**令和7年度
飯南町一般会計補正予算(第5号)**

物価高対応子育て応援手当支給事業 **1312万円**
物価高対策として、児童手当の給付対象となる18歳までの子ども一人当たりに2万円を給付する。

教育経済常任委員会

委員長：高橋英次 副委員長：岸 光研
委員：内藤真一 安部誠也 平石玲児

**令和7年度
飯南町一般会計補正予算(第4号)**

い〜にゃんPAY利用促進事業 **254万円**
町内Aコープ3店舗が、い〜にゃんPAY事業に参加する。その現金チャージ機を設置する補助金。

農地災害復旧事業 **2610万円**
7月～8月の大雨による農地災害4件の復旧費。

農業用施設災害復旧事業 **140万円**
8月の大雨による農業用水路災害1件の復旧費。

公共土木施設災害復旧事業 **2130万円**
7月～8月の大雨による河川災害2件の復旧費。

**令和7年度
飯南町一般会計補正予算(第5号)**

商業活性化重点支援事業 **8900万円**
商工業者の物価高騰等に対する支援として2300万円。
町民の生活応援ポイントによる支援として6600万円。



い〜にゃんPAYの現金チャージ機

決算審査報告

決算審査特別委員会
委員長 安部 誠也

審査の対象

令和6年度飯南町各会計決算書

審査意見

財政指標の状況は、経常収支比率が97・1％で前年度より0・5ポイント低下、地方債現在高比率が207・3％で前年度より18・5ポイント減少している。

財政健全化法に定める指標のうち、実質公債費比率は10・4％、将来負担比率は20・7％といずれも早期健全化基準を下回っているが、今後も限られた財源のもとで、的確な予算編成、効率的かつ効果的な予算執行に努め、引き続き財政の健全化に努力されたい。

町債について

令和6年度末の町債残高は93億8千8百万円であるが、繰上償還を実施したこと、また町債発行額を抑制したことにより、前年度末に比べ4億9千8百万円減少している。

繰越事業について

令和6年度の翌年度繰越額は、明許繰越3億5千5百万円となっている。

徹底した進捗管理とともに、適切な業務執行の徹底に努められたい。

収入未済額について

一般会計の収入未済額は3千6百万円で、前年度より2百万円増加。新たに建物売払収入、土地建物貸付収入において未収額が発生した。速やかに徴収の策を講じられたい。

指定管理について

飯南町観光体験農園(りんご園及びブルーベリー園)と赤名観光ぼたん園は同一事業者が指定管理をしている。両施設の管理時期が重なるため、りんご樹木の管理がおろそかになり収穫に影響が出ているとしている。

経営を軌道に乗せるには、両施設の指定管理を分けるなどの検討が必要。また、入園料と持ち出し料が長年変更されていない。物価は高騰しており適正料金を検討されたい。

国民健康保険事業会計

国民健康保険事業基金は2億2千9百万円余ある。近隣自治体と比較しても過剰と思われる。適切な基金残高を設定するとともに、保険料の引き下げなど、被保険者の負担軽減を検討されたい。

議会活動報告 [10月～12月]

- 10月2日 議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）
3日 雲南地域スポーツ交流会（奥出雲町）
4日 大田市合併20周年記念式典
6日 議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）
7日 島根県町村議会議長会全議員研修会（松江市）
8日 徳島県勝浦町行政視察受け入れ
10日 島根県中央子牛共進会（松江市）
14日 決算審査特別委員会
16日 決算審査特別委員会
17日 姉妹都市友好交流都市歓迎交流会
18日 姉妹都市友好交流都市周年記念式典
23日 決算審査特別委員会
30日 雲南市飯南町事務組合視察&定例会
31日 岡山県吉備中央町行政視察受け入れ

- 12月2日 12月定例会：本会議（町長提出議案の説明、質疑、委員会付託）
5日 ：本会議（一般質問）
8～10日 ：委員会審査
11日 ：議会運営委員会（追加提出議案、日程ほかの協議）
：委員会審査、予算特別委員会、全員協議会
12日 12月定例会：本会議（委員長報告、討論、採決）
17日 議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）
23日 雲南広域連合議会定例会（雲南市）
雲南市・飯南町事務組合議会臨時会（雲南市）
25日 議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）

全員協議会の報告

- 令和7年12月11日(木)
①中期財政計画
②給与の改定
③総合経済対策
④物価高対応子育て応援手当
⑤持続可能な地方創生モデル構築事業の提案
⑥飯石森林組合製材加工事業の停止
⑦観光交流施設の指定管理者の選定
⑧飯南町教育環境基本計画の住民説明会
⑨飯南町認知症をもつ人にやさしいまちづくり条例
⑩健康なまちづくり推進計画の策定

- 11月3日 飯南町功労者表彰
4日 決算審査特別委員会
5日 決算審査特別委員会
石川県小松市行政視察受け入れ
10日 決算審査特別委員会
11日 決算審査特別委員会
11～12日 全国町村議会議長大会（東京）
13日 決算審査特別委員会 教育経済常任委員会
北海道留萌管内議長会行政視察受け入れ
17～19日 全議員行政視察（長野県、静岡県他）
20日 決算審査特別委員会
25日 決算審査特別委員会
26日 島根県後期高齢者広域連合議会
雲南市飯南町事務組合例月監査 病院事業審議会
27日 議会運営委員会（12月定例会の提出議案、日程ほかの協議）
議会広報常任委員会
28日 島根県町村議会正副議長正副委員長研修（松江市）

はやしこ復活50周年

伝統と絆のたすき未来へ繋ぐ

金屋子神社

はやしこ同好会(上米島)

会長 才間良成さん

奥野征司さん

松田修吾さん

この秋、金屋子神社例大祭のはやしこ奉納が、復活50周年の節目を迎えました。小雨模様にも関わらず、上米島地区の内外から、老若男女問わず多くの方々にご参拝いただき、その中で無事はやしこを奉納し、賑やかな行列を披露できました。

7月頃から同好会のそれぞれが企画を持ち寄り、話し合いを重ねて、告知チラシ配布や、キッチンカー手配などの

明日を拓く



時代を重ねて感じる事は「地域を縦に繋ぐ」

今年も帰省し参加してくれた若い世代が、結構な人数お

段取りを進め、賑わいの中で節目を迎えることができました。



会長の才間良成さん

手づくりの笛もそのひとつです。娘が中学校の花田植で笛を吹く機会があり、笛を手づくりしました。友達の笛も作るようになり、それぞれが自分の笛に愛着を持って練習し、成長しています。今年も自分の笛で帰省参加し、祭りを盛り上げてくれました。

はやしこは、幼児から80歳を超える世代までを縦に繋ぐ、唯一の行事です。楽しい思い出繋がる縦の結び付きが地域の土台となり、世代を超えた交流が生まれ、結束を強めてきました。伝統芸能の継承だけではない価値を感じています。

られたのは嬉しかったです。町外に出た人たちが、はやしこをきっかけに戻ってきてくれていました。



松田修吾さん

未来に向けて

これまでも同好会存続の危機が何度かありましたが、工夫し知恵を絞り、乗り越えて来ました。はやしこが廃れると地域も廃れると言われているので、続けていくことが自分たちの責務だと思っています。私たちの姿を見て育った次の世代からも同好会で一緒に盛り上げてもらいたい。その繋がりが続く限りたすきは繋がります。次の世代のリーダーが育つ流れを作って行きたい。



奥野征司さん

今月の表紙写真



上米島の金屋子神社例大祭。伝統の「はやしこ」が練り歩き、地域のみんなが「楽」と「舞」とに拍手を送っていました。「はやしこが廃れると地域も廃れる」との思いが伝承の源泉となり、どうしても継承できるのだろうか、どうしても楽しんでいただけるのだろうか、などと考えるうちに新しい絆も生まれたと聞きます。

《キラリ★飯南人》募集中

「明日を拓く」で取り上げてほしい個人・団体などの情報をお寄せください。議会広報委員が取材に伺います。

《応募先》飯南町議会事務局
0854-76-2190



議会広報常任委員会

委員長:安部 丘 副委員長:高橋 徹 委員:伊藤 好晴 安部 誠也 平石 玲児 岸 光研

飯南町議会事務局 島根県飯石郡飯南町下赤名880番地 TEL0854-76-2190 FAX0854-76-2867